

自動車フロントグリルに対する感性構造の比較研究<1> —タイ人の分析—

130441056 黄峻
川澄研究室

1. はじめに

近年、ASEAN 市場が急成長し、現地ユーザにあった工業製品の設計ニーズが高まっている[1]。我々は、ASEAN において最も大きな自動車生産拠点であるタイにて、タイ人が自動車の内外装に対して抱く視覚的な感性構造を分析してきた。本研究の目的は、販売台数の多い SUV(Sport Utility Vehicle)、ピックアップトラックのフロントグリルに対するタイ人の評価構造とフロントグリルの形態的な特徴との関係性を見つけ出し、今後のデザイン提案に役立てることである。

2. 実験方法

実験刺激として自動車フロントグリルを正面から撮影した写真画像を 13 種類収集し、A3 の写真紙で用意した。車種は現在各国で販売されている SUV とピックアップトラックである。デザインモジュール（ライン状、メッシュ状など）やフレームの表面色（シルバー、ブラックなど）などの形態的な特徴が異なる 13 車種を選んだ(表 1)。被験者には各実験刺激に対する視覚的な印象を 21 対の形容詞を使って 7 段階の SD(Semantic Differential)法で評価をしてもらった。形容詞には、低次の感覚を表す bright, glossy や総合的嗜好を表す favorite, appealing や SUV のイメージでよく使用される strong, heavy などを取り混ぜた。評価用紙や実験の教示にはタイ語を使用した。被験者として、車を運転しかつ購入した経験のあるタイ人 61 名(男 32, 女 29)に協力していただいた。所要時間は 30 ~40 分程度であった。

表 1 フロントグリルの内訳

車種	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
高さ*1	S	S	M	L	S	M	L	M	S	S	M	L	L
デザイン*2	L	V	L	L	L	M	M				V	L	M
表面*3	S	S	SB	S	S	S	B	B	B	S	SB	SB	B

*1 高さ（縦方向の厚み） S: short, M: middle, L: long

*2 デザインモジュール L:ライン状, V:V字状, M:メッシュ状

*3 表面色 S: シルバー, B: ブラック, SB: シルバー & ブラック

3. 実験結果

SD 法で得られたデータを主成分分析したところ、主成分 1(stylish, cool : カッコよさ)、主成分 2(bright, light : 軽快さ)で構成されることが明らかになった。主成分 1-2 で表す 2 次元空間上に 13 車種 A~M の主成分得点の平均をプロットし、形態要素との関係性をみた。図 1 はデザインモジュールとの関係性を示した図で、最近主流であるメッシュを全面に押し出したグリル G・M は「カッコよさ」成分が高めで(図 1:①)、従

来型の V 字フレームが特徴的なグリル B・K は「カッコよさ」成分が低めである(図 1:②)ことがわかった。また、フレームがライン状に並ぶグリル C・L は縦軸の「軽快さ」成分が高めでである(図 1:③)ことなどがわかった。図 2 では、フレームやメッシュの表面処理におけるシルバーとブラックの比率との関係性を示した。光沢のある表面処理が多く使われていると「軽快さ」が増し、ブラックの面積が多くなるメッシュ状のグリルは重厚な印象になることがわかった。

4. まとめ

フロントグリルに対するタイ人の視覚的な感性構造を分析し、フロントグリルの形態的な特徴(表面処理など)との関係性を明らかにした。今後は今回明らかになった関係性を反映させた新たなデザインを起し、グラフィック画像を用いて効果を検証する予定である。また、日本人の感性構造との比較も行いたい。

参考文献

[1] 経済産業省：メキシコ、タイ、インドの自動車政策、通商白書, pp206-214, 2014

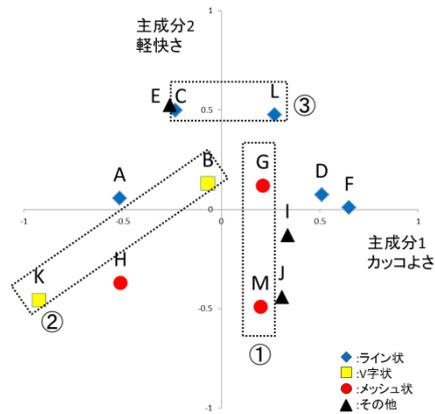


図 1 各車種の位置づけ (デザインモジュールとの関係)

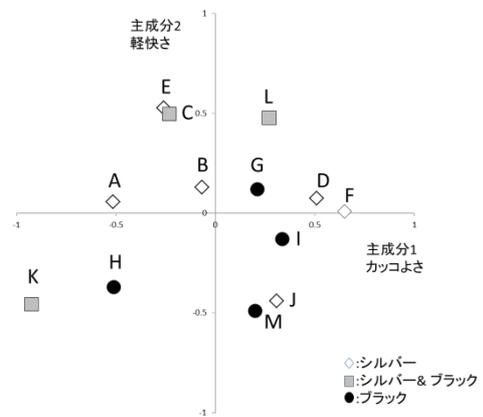


図 2 各車種の位置づけ(表面色との関係)